

安心ネットづくり促進協議会の取り組みについて

2019年7月17日

安心ネットづくり促進協議会



- 第6回タスクフォースにおいて、安心協が設置したインターネット環境整備に係る検討会（以下「検討会」）の検討結果を報告したが、その内容に基づく今後の取り組みについて報告する

検討会の実施内容、目的について第6回資料の一部を再掲

【実施内容】

コンテンツやフィルタリングサービスについて保護者や青少年の視点で分析し評価すること

【実施目的】

1. 総務省青少年タスクフォースのとりまとめに基づき高校生プラスに関するモニタリング（一部SNSが使えるフィルタリングの評価）を行うこと
2. モニタリングで得られたコンテンツ・フィルタリングサービスに関する情報を、フィルタリングサービス（カスタマイズ）を利用する際の判断材料として保護者に提供することで、青少年のリテラシーに応じてインターネットやSNSを安全に賢く利用してもらうよう支援すること

高校生プラスに関する評価のまとめ

- 高校生プラスは一定数利用されており、利用者の満足度も高いことから一定の導入効果があった
- 小・中学生も選択するなど多様なニーズに対する選択肢が増え、その結果フィルタリング利用率の向上も想定されるという点でも、提供意義はあった

スマホ利用や多様なツールに関する評価のまとめ

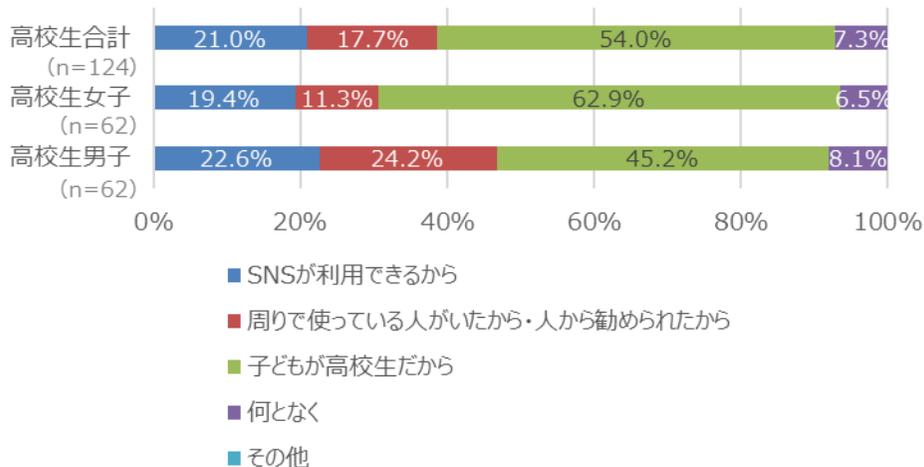
- スマホ利用について、継続的な親子間コミュニケーション（子どものSNS利用状況の把握、トラブル事例の親子間での共有、家庭内ルールについての話し合いなど）や、子どものスマホ利用時間の把握が重要
- 保護者は、家庭内ルールの実効性を高めるために、子どものリテラシーに合わせて、様々なツール（フィルタリング）を選択、活用することが望ましい
- 保護者が適切に様々なツール(フィルタリング)を選択、活用するためには、ツール(フィルタリング)の認知度の向上、保護者向け情報の提供が重要

【調査結果】高校生プラスの利用実態

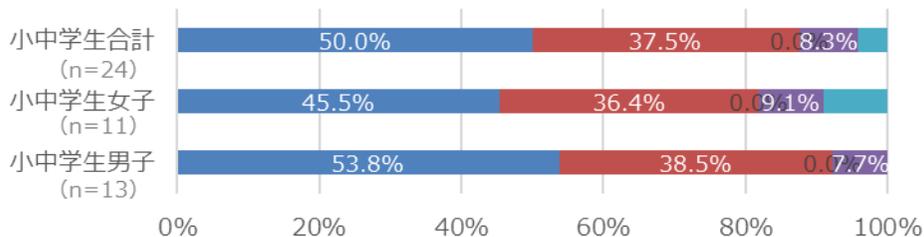
高校生プラスを利用する理由

- 高校生では「子どもが高校生だから」と回答した保護者が多い
- 女子は「SNSが利用できるから」がその次に多いが、男子では「周りで使っている・周囲から勧められた」と同程度
- 小中学生では「男女とも「SNSが利用できるから」が最多

「高校生プラス」を利用する理由（高校生）



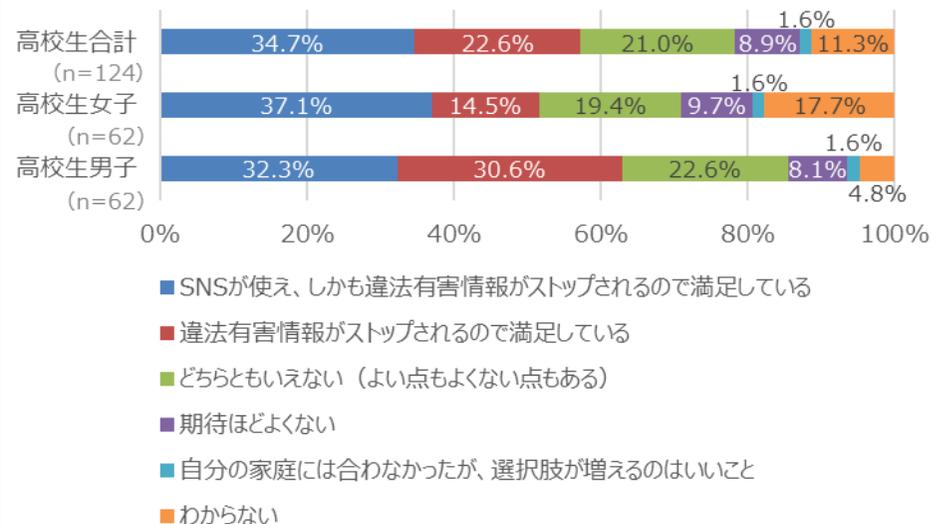
「高校生プラス」を利用する理由（小中生）



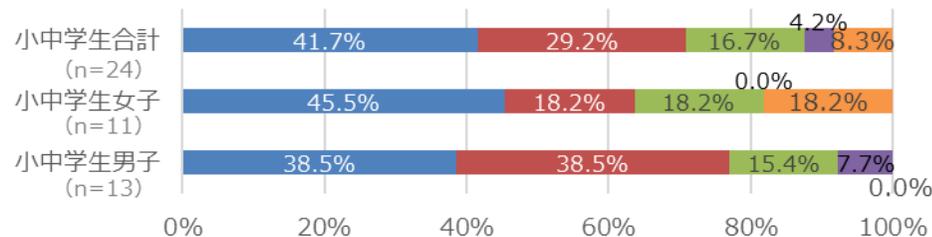
高校生プラスの評価

- 高校生の保護者の50%～60%は満足と評価しており、「期待ほどよくなかった」は1割に満たない
- 小中学生の保護者では約60%～約77%が満足している
- いずれも「SNSが利用できることを評価する保護者が多い

「高校生プラス」を利用した評価（高校生）



「高校生プラス」を利用した評価（小中生）

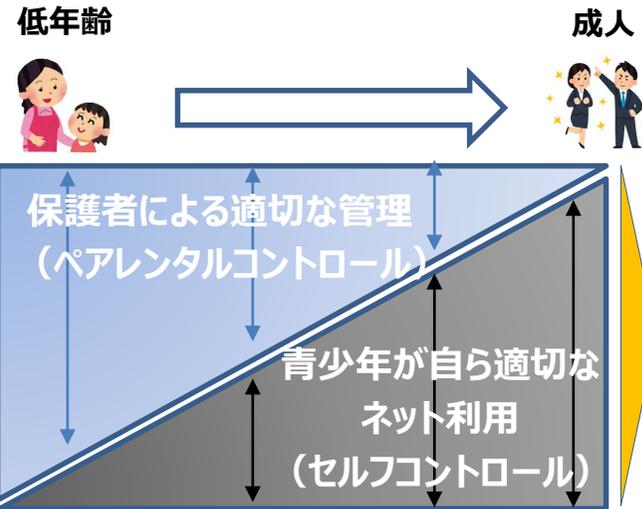


- 多様なニーズに応える選択肢の一つであると評価された高校生プラスやカスタマイズ機能などによってフィルタリングを利用しつつSNSを使う青少年が増加することが想定され、インターネットを賢く利用するための知識や情報の重要度が高まっている
- 保護者が様々なツール類（フィルタリング）を活用するうえで参考となるSNSに関する情報を大手SNS（会員）の協力を得て本年2月から開示しているが、青少年ネット利用環境整備協議会より、会員が提供するコンテンツの利用において保護者に知らせたい情報を取りまとめる提案があった
- 検討会では、「ツール類を上手に利用するための情報提供の必要性」や「親子間コミュニケーションの重要性」などの指摘があったため、今年度において、コンテンツに関する情報と併せて情報発信を強化する

青少年保護のめざす姿と安心協の役割

➤ 青少年保護のめざす姿は安心・安全なネット利用を実現することであり、フィルタリング等のツールを活用しながら保護者による適切な管理に資する情報を提供することが重要

業界をあげた取組	
CP	コンテンツのパトロール
	情報の作成
安心協	情報の確認
	普及啓発（情報の発信）
	適切な説明・設定
MNO	フィルタリング促進
	普及啓発（教室）
	フィルタリング改善
OS メーカー	フィルタリング改善
行政	普及啓発（eネットキャラバン等）



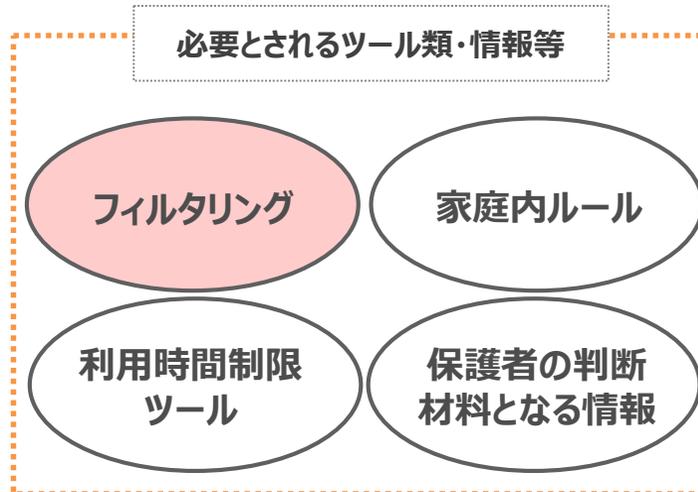
業界（安心協）としてめざす姿

青少年保護

▼

【安心・安全なネット利用】

- ・青少年のネット利用に関するリテラシーが向上すること
- ・青少年が有害・違法情報に触れないこと
- ・青少年の犯罪被害がなくなること



: 新たな取組み

安心協の取組み

(保護者への情報発信の強化について)

➤ 保護者に対して情報発信を行う際の方向性について次の観点から検討した

1. インターネット利用における保護者の不安要素とツール類*

2. ツール類*を用いた対策の啓発ポイント

3. 家庭における親子間コミュニケーション

4. 具体的な情報提供・啓発方法

* ツール類とは、フィルタリング（有害情報遮断する機能）のほか、利用状況を確認する機能、時間を設定する機能や各種設定などインターネットを安全に使うための仕組み全般の総称

1. インターネット利用における保護者の不安要素と関心

保護者が感じる不安要素と対策ツールについて

- 保護者が子どものインターネット利用において感じる不安要素のうち、特に関心の高い利用時間に関係するものは有害情報を遮断する機能としてのフィルタリングではカバーできないため、ツール類の利用を働き掛ける際に、保護者の関心を集める工夫が必要

利用時間等に関係するもの

保護者の関心が高い

他

スマホ依存

保護者の関心が高い

学習・成績への影響

保護者の関心が高い

身体や健康への影響

他人との関係性に関係するもの

ネットいじめ
被害／加害

フ

誘い出しや
性的被害

対面
コミュニケーション
への影響

利用知識・方法に関係するもの

ウ

設

個人情報の
漏えい

設

ウ

フ

課金

フ

不適切な情報
発信

ネット情報の内容・質に関係するもの

フ

有害情報等に
触れることや、
その影響

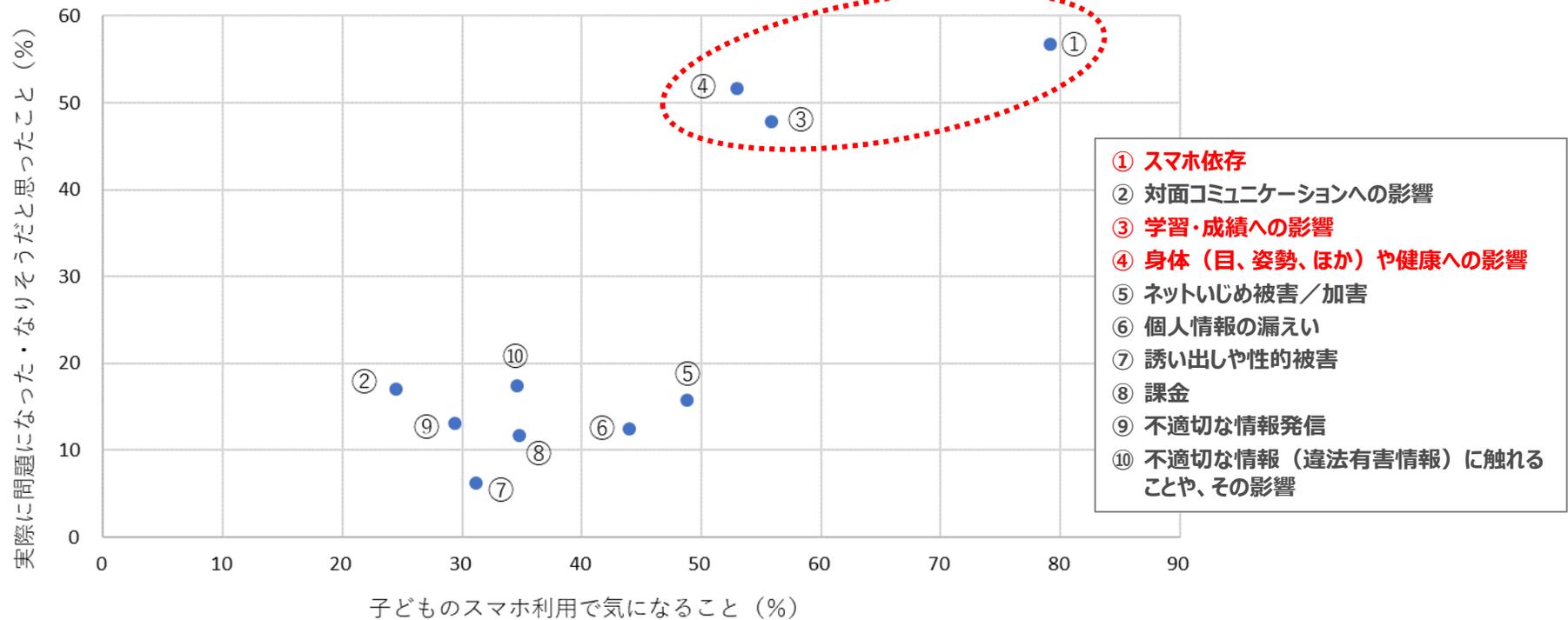
利用できるツール類（※ツール類のみでは該当する事象を完全に防止することはできないことに注意が必要）

フ フィルタリング ウ ウィルス対策 設 設定 他 利用時間を管理するなどの機能（OSやフィルタリングに付随する機能等）

【調査結果】子どものネット利用における保護者の不安要素（1/2）

- 保護者の関心や懸念は、「スマホ依存」、「学習・成績への影響」、「身体や健康への影響」など、長時間利用に関係するものが相対的に突出している

子どものスマホ利用のリスクについての保護者の認識



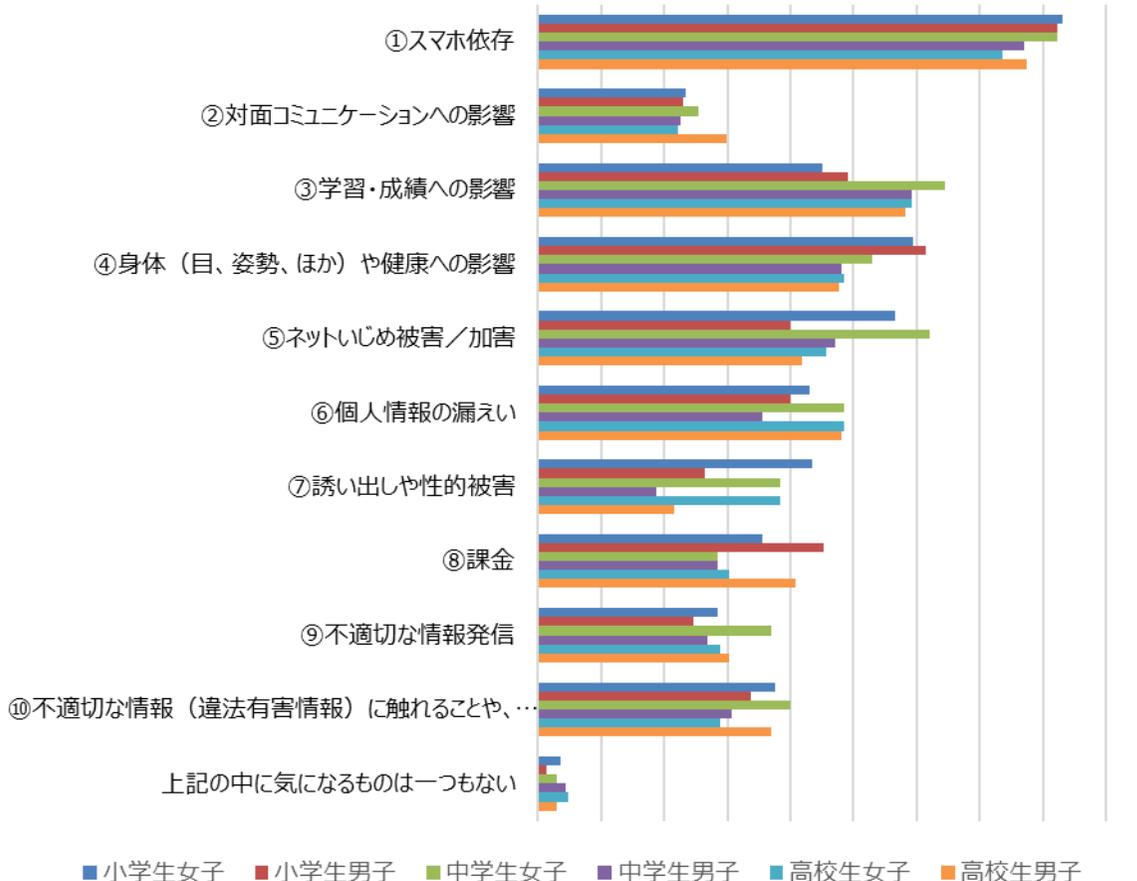
性別・学齢別

子どものスマホ利用で保護者が気にすること

（あてはまるもの全て）

（n=1,240）

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90%



	小学生		中学生		高校生	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子
①スマホ依存	✓	✓		✓		
②対面コミュニケーションへの影響					✓	
③学習・成績への影響			✓	✓	✓	✓
④身体や健康への影響	✓	✓				
⑤ネットいじめ被害/加害		✓		✓		
⑥個人情報の漏えい				✓	✓	✓
⑦誘い出しや性的被害		✓		✓		✓
⑧課金	✓				✓	
⑨不適切な情報発信				✓		
⑩違法有害情報に触れること		✓		✓	✓	

✓：保護者が気にする比率が相対的に高い項目

2. ツール類を用いた対策の啓発ポイント

不安要素の対策に有効なツール類

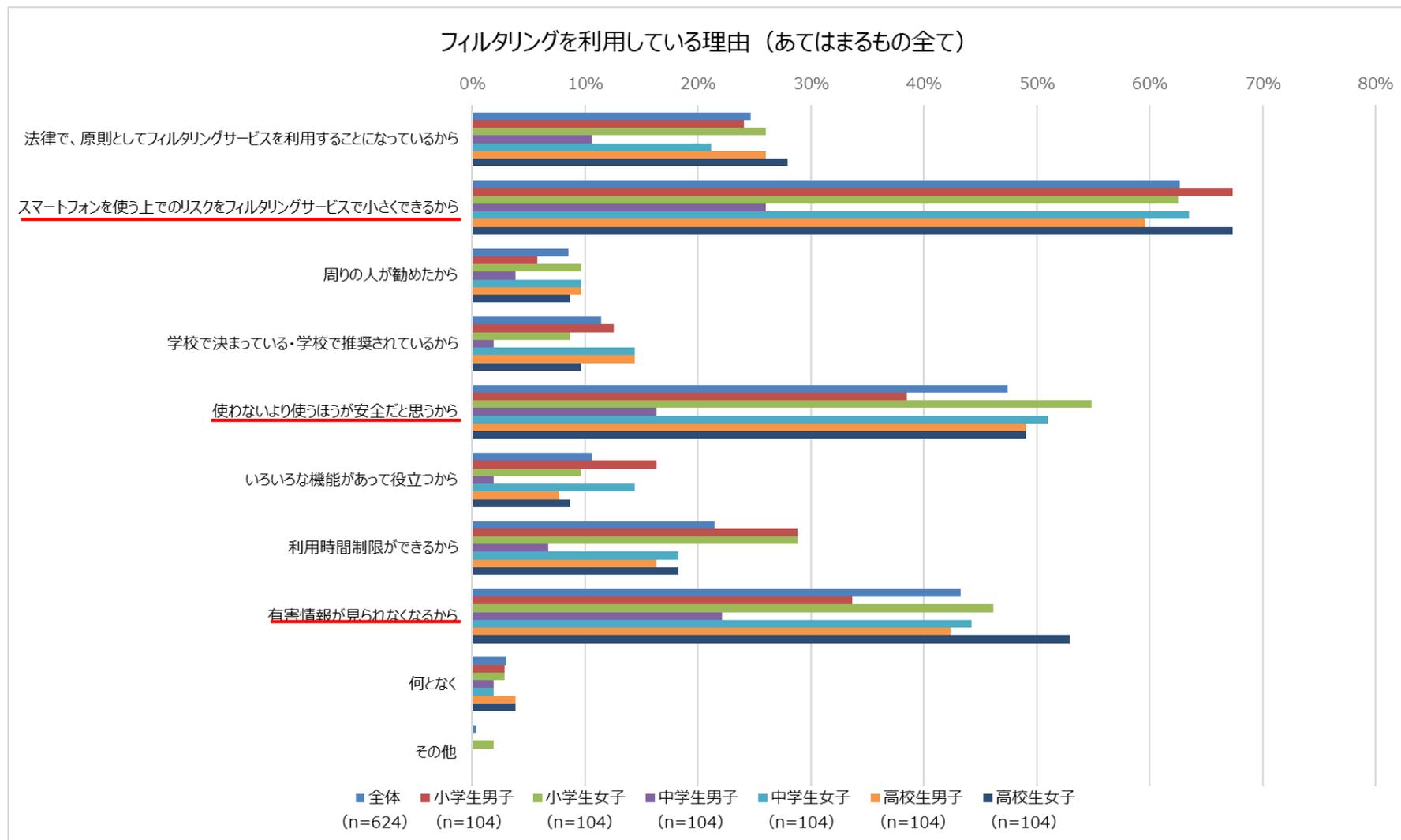
- ツール類は通信会社、機器、サービスなどによって異なるため、保護者が個々の不安要素に応じた対策を適切に選択できるよう伝えることが必要

	項目	特徴
有害情報遮断機能	学齢別サービス区分	小学生など学齢別に推奨するフィルタリングレベル（段階）を設けている
	保護者端末連動	初期設定では利用できないサイトやアプリケーションの利用許可を保護者のスマホやPCから設定変更（カスタマイズ）できる
	ネイティブブラウザ利用	フィルタリング利用時に、Safari (iPhoneの標準ブラウザ)、Chrome (Androidスマホの標準ブラウザ)を利用でき、スマホの利便性を損なわない
	Wi-Fi利用時のフィルタリング	Wi-Fi経由のコンテンツについてフィルタリングの対象とすることが可能
その他の機能	利用状況確認	子供の端末の利用時間、主に利用しているサービスカテゴリーなどを親のスマホに通知する機能
	利用時間制限	スマートフォンを利用する時間（時間帯や利用合計）を設定できる機能
	危険サイト対策	フィッシング詐欺などのネット犯罪を未然に防ぐために、アクセスするサイトが安全かどうかを確認し、危険な場合はアラームを出す機能
	利用分析・警告	子供のプライバシーに配慮しつつ、子供の利用状況を分析し、危険性などについて保護者に通知する機能
	位置情報の確認	子供の現在位置等を確認する機能

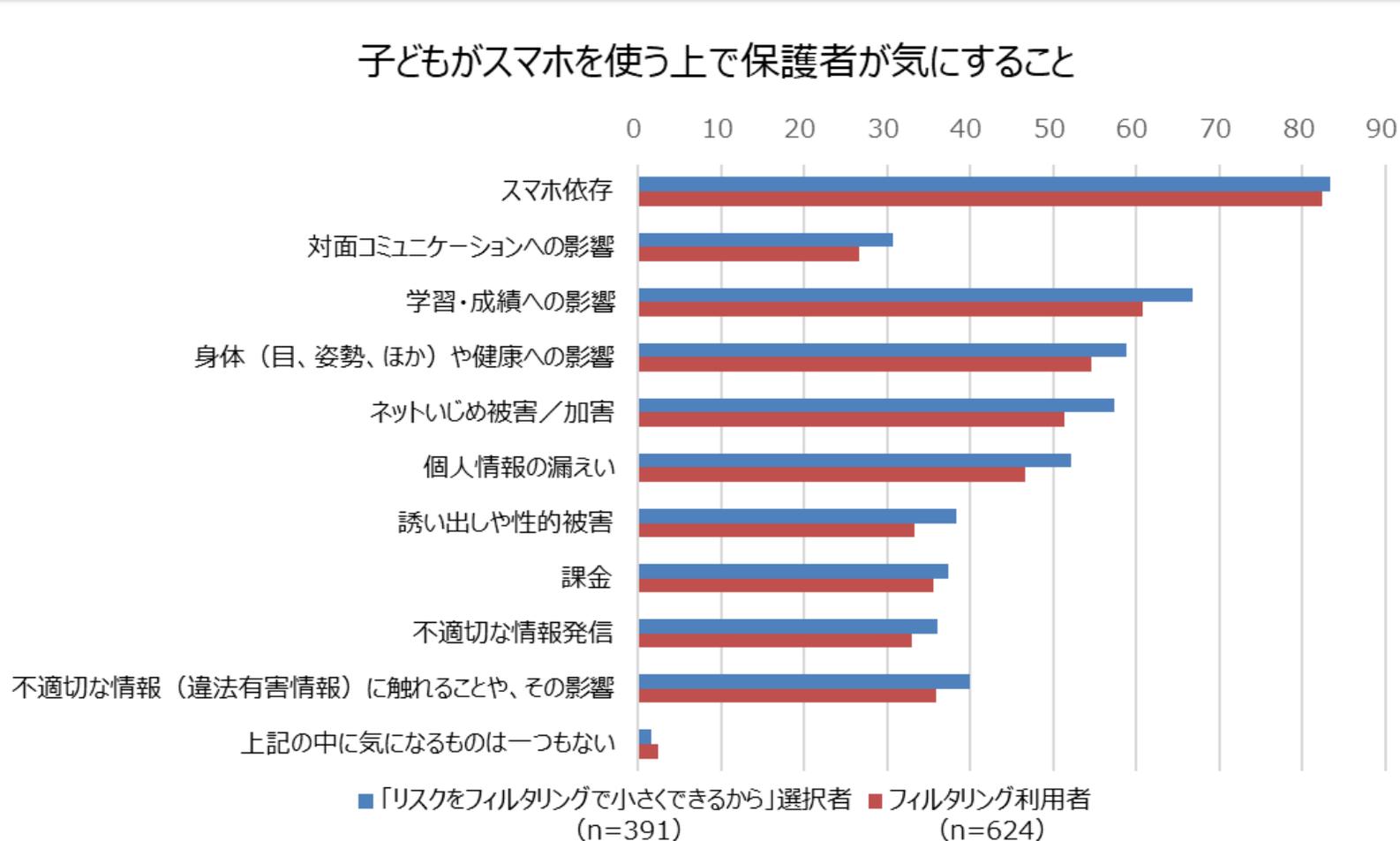
※上記以外にも利用するサービスにおいて課金や個人情報等に関する対策が行える

【調査結果】フィルタリングを利用する理由

➤ フィルタリングを利用する理由は、「スマホを使う上でのリスクを小さくできるから」「使わないより安全だから」「有害情報が見られなくなるから」の順に多い



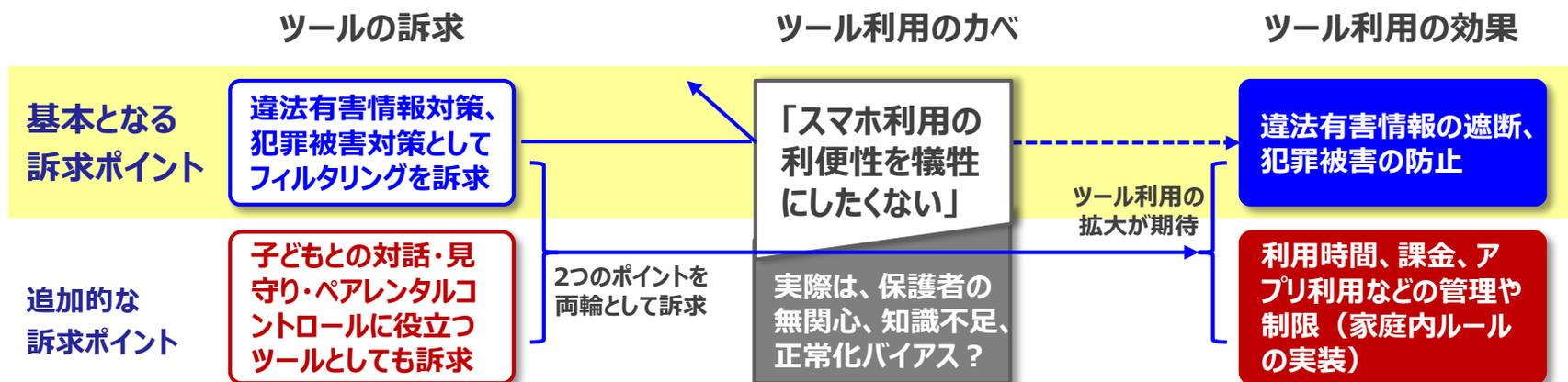
- フィルタリングを使っている理由のうち「スマホを使う上でのリスクを小さくできるから」を選択した保護者は、スマホを使う上での心配事として、全ての項目についてフィルタリング利用者全体平均よりも多く挙げているが、心配事の傾向としては同じ



ツール類を用いた対策の啓発ポイント

- インターネットを安全に利用するためにツール類の活用が重要であることを保護者に伝えるにあたり、多くの保護者にとって関心の高い利用時間を制限する機能があることを強調して説明することで、より幅広くツール類が活用され、有害情報の遮断や親子間のコミュニケーションを促すことにつながることが期待できるのではないかと
- ツール類は多様な役割を担っていることから、有害情報を遮断する「フィルタリング」といった名称に変わる適切な用語を用いて啓発することを検討すべきではないかと

【訴求ポイントのイメージ】

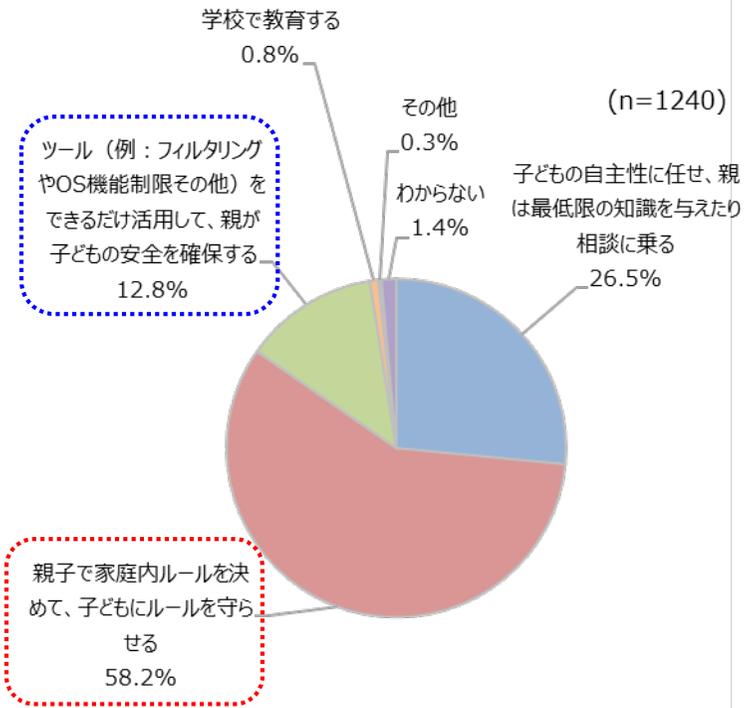


3. 家庭における親子間コミュニケーション

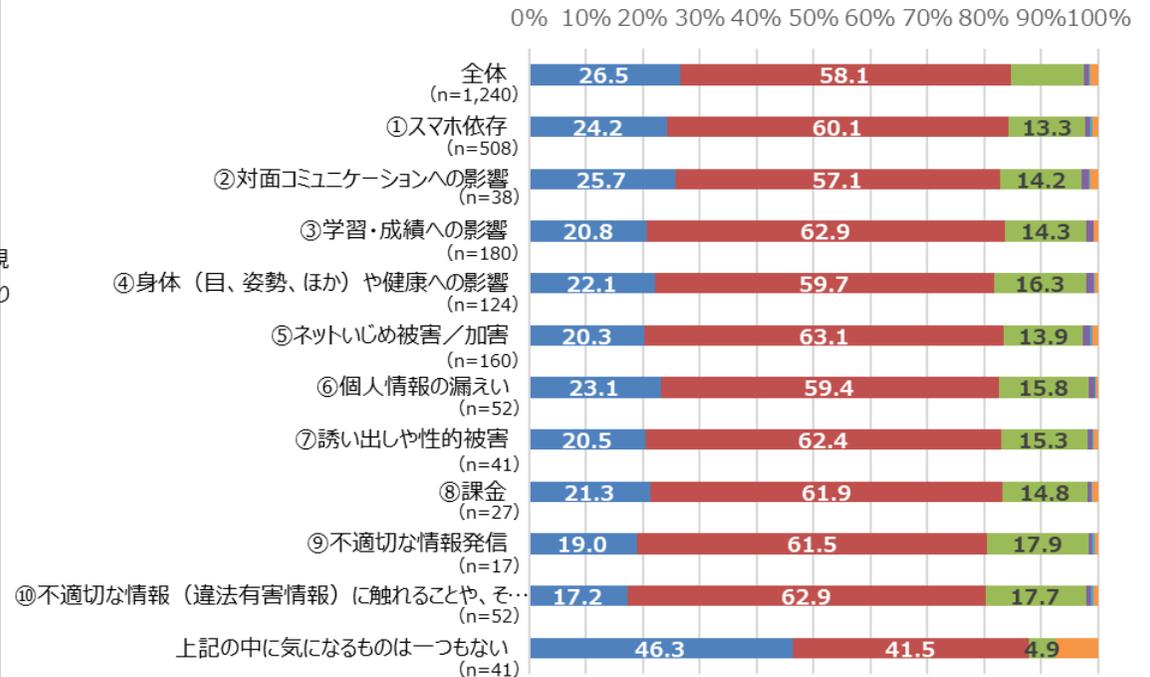
- 多くの保護者（子どもの自主性を重視しフィルタリングを利用しない保護者を含む）は家庭内ルールの重要性を感じていることに加え、インターネットサービスの多様化に伴い課題も幅広くなりツール類で全ての課題をカバーすることが困難になってきていることから、家庭内ルールなどのソフト面の啓発が更に重要になると考えられる
- このため、家庭内ルールの実態把握や望ましい家庭内ルールについて検討することが求められているのではないか
- 家庭内ルールが機能するためには「親子間のコミュニケーション」が基礎となることから、子どもが低年齢の段階からこのことを保護者が意識できるよう、安心協はインターネットの安心安全な利用に関する啓発の対象をより低年齢層保護者に拡大し、子育て、育児などの教育的な内容も盛り込むことで、その後においてインターネットを適切に利用できる者が育つよう取り組むこととしたい

➤ 子どもがスマホのメリットを活かしつつ安全に使うために望ましい方法としては、「家庭内ルール」、「子どもの最低限の知識」、「ツール活用」、の順に多かった

子どもがスマホのメリットを生かしつつ安全に使うために望ましい方法



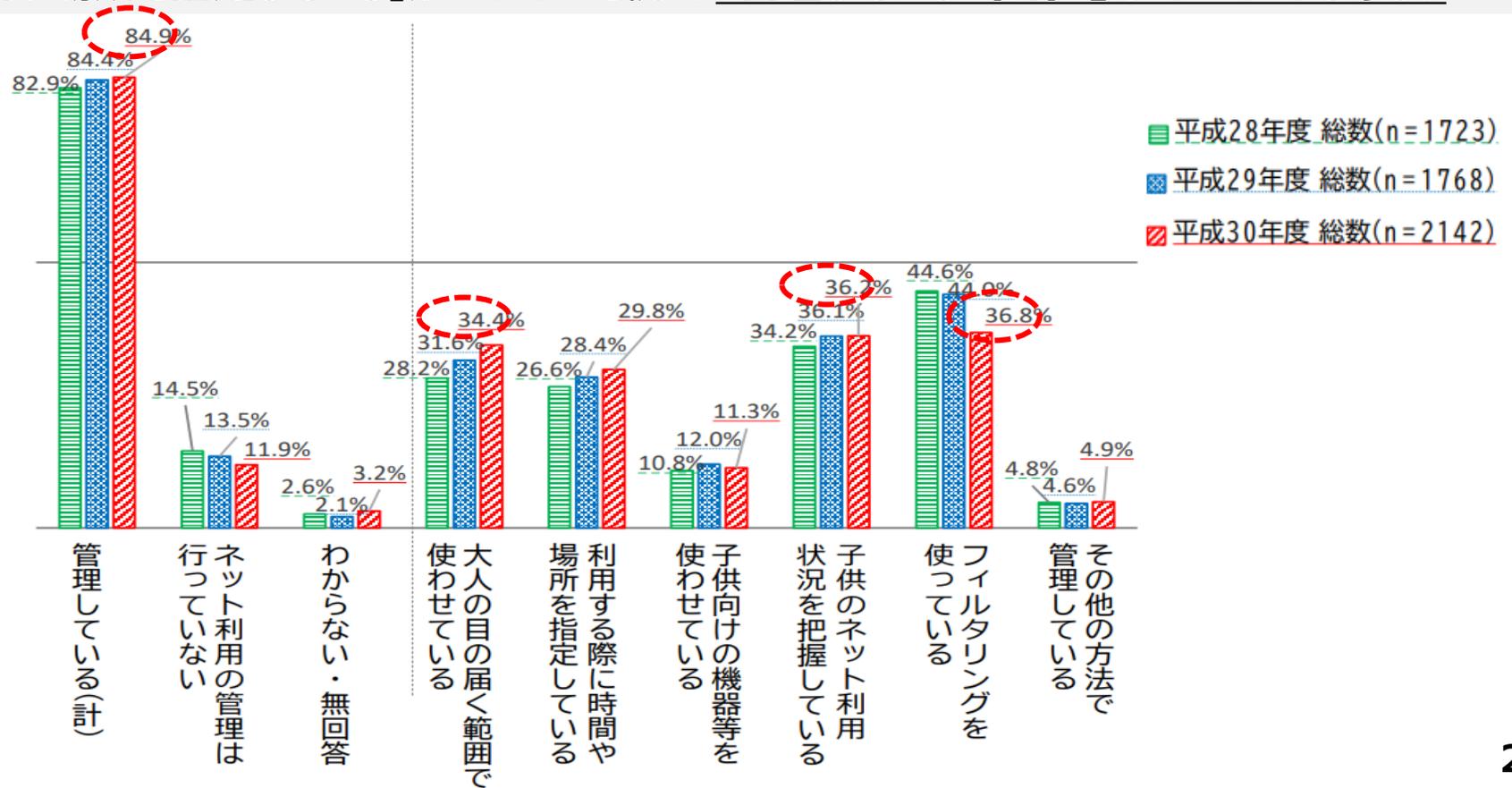
子どものスマホ利用で気になることとその対策



- 子どもの自主性に任せ、親は最低限の知識を与えたり相談に乗る
- 親子で家庭内ルールを決めて、子どもにルールを守らせる
- ツール（例：フィルタリングやOS機能制限その他）をできるだけ活用して、親が子どもの安全を確保する
- 学校で教育する
- その他
- わからない

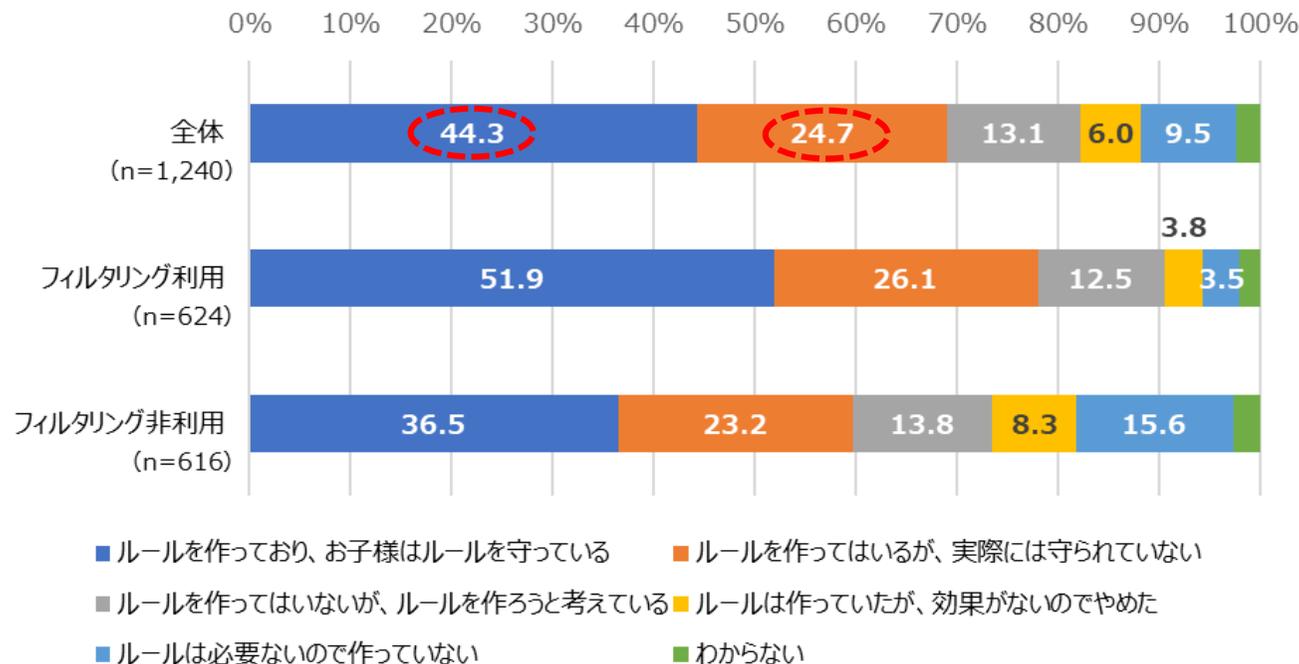
「インターネット利用における保護者の取組状況」より抜粋

「スマートフォン」でインターネットを利用している子供（2,142人）に対する取組は、**「フィルタリングを使っている」が36.8%**で最も多く、次いで「普段の会話やコミュニケーションの中で、子供のインターネット利用状況を把握している」が36.2%、「大人の目の届く範囲で使わせている」が34.4%、「利用する際に時間や場所を指定している」が29.8%と続く。**「管理している（計）」は84.9%である。**



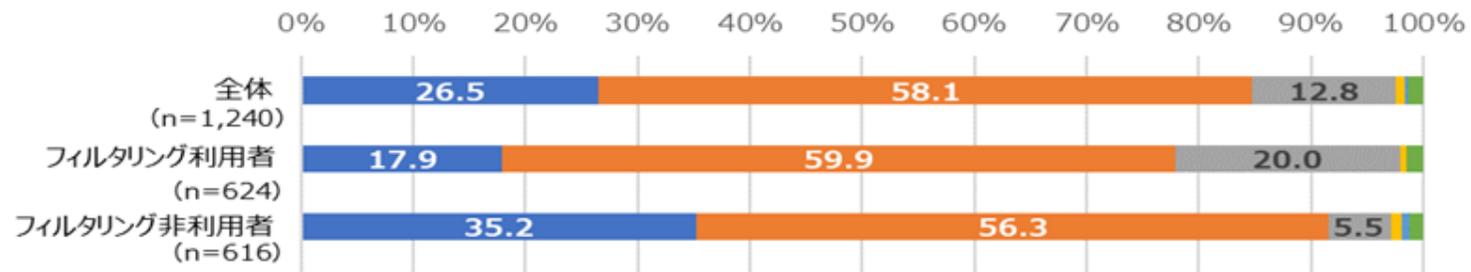
- **全体で44%が「家庭内でルールを作っており守られている」と回答し、「ルールを作っているが守られていない」を合わせると69%がルールを作っている**
- **フィルタリング利用者は、非利用者と比べて「家庭内でルールを作っており守られている」の比率も家庭内でルールを作っている比率も高い**

家庭内でのスマホ利用ルールの状況



- 「家庭内ルール」が基盤となることは共通しているが、フィルタリング利用者は「ツール活用」を重視し、フィルタリング非利用者は「子どもの自主性（最低限の知識は与える）」を重視している

スマホのメリットを生かしつつ安全に使わせるための方法

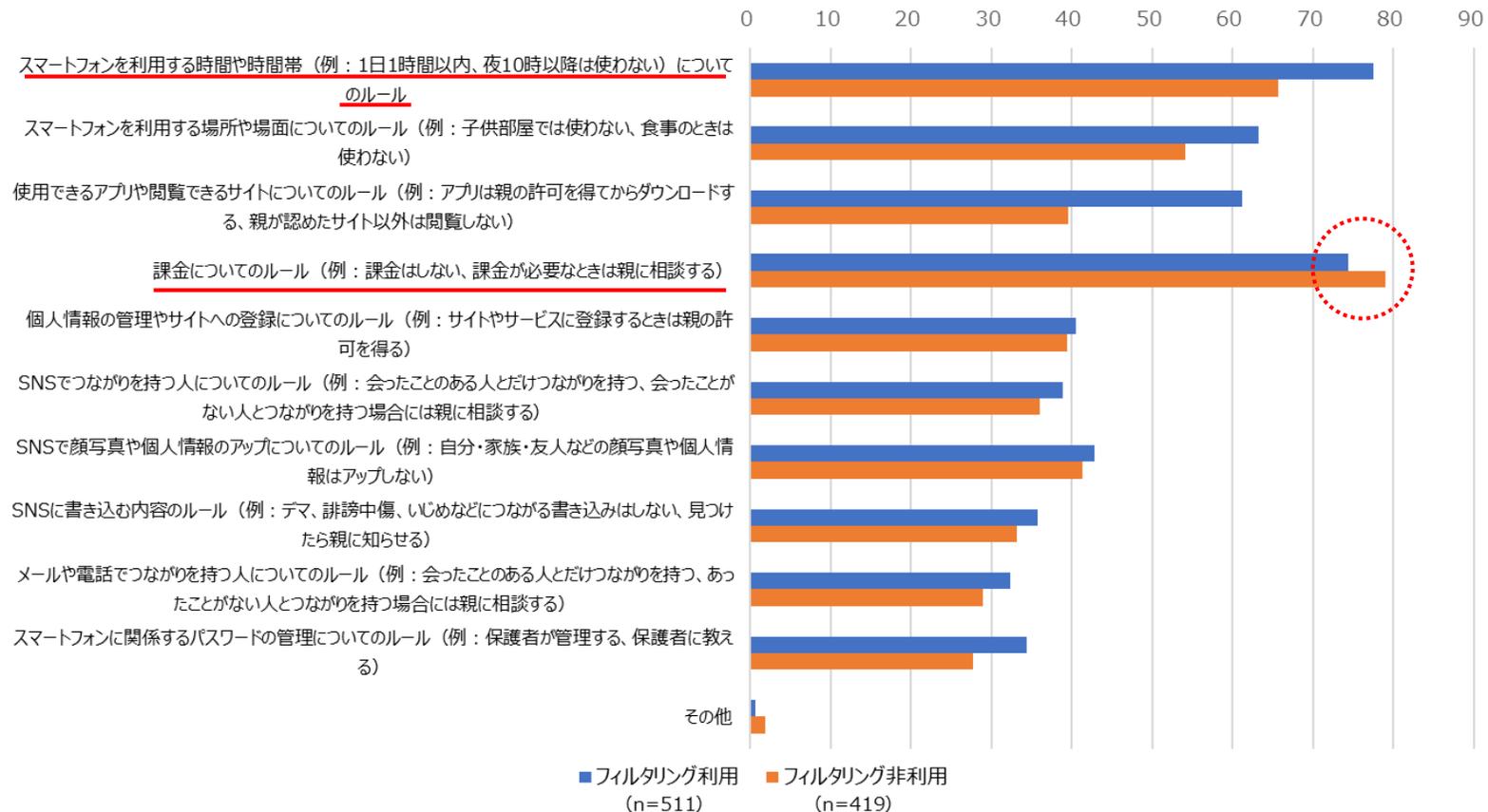


- 子どもの自主性に任せ、親は最低限の知識を与えたり相談に乗る
- 親子で家庭内ルールを決めて、子どもにルールを守らせる
- ツール（例：フィルタリングやOS機能制限その他）をできるだけ活用して、親が子どもの安全を確保する
- 学校で教育する
- その他
- わからない

【調査結果】家庭内で作っている具体的なルール

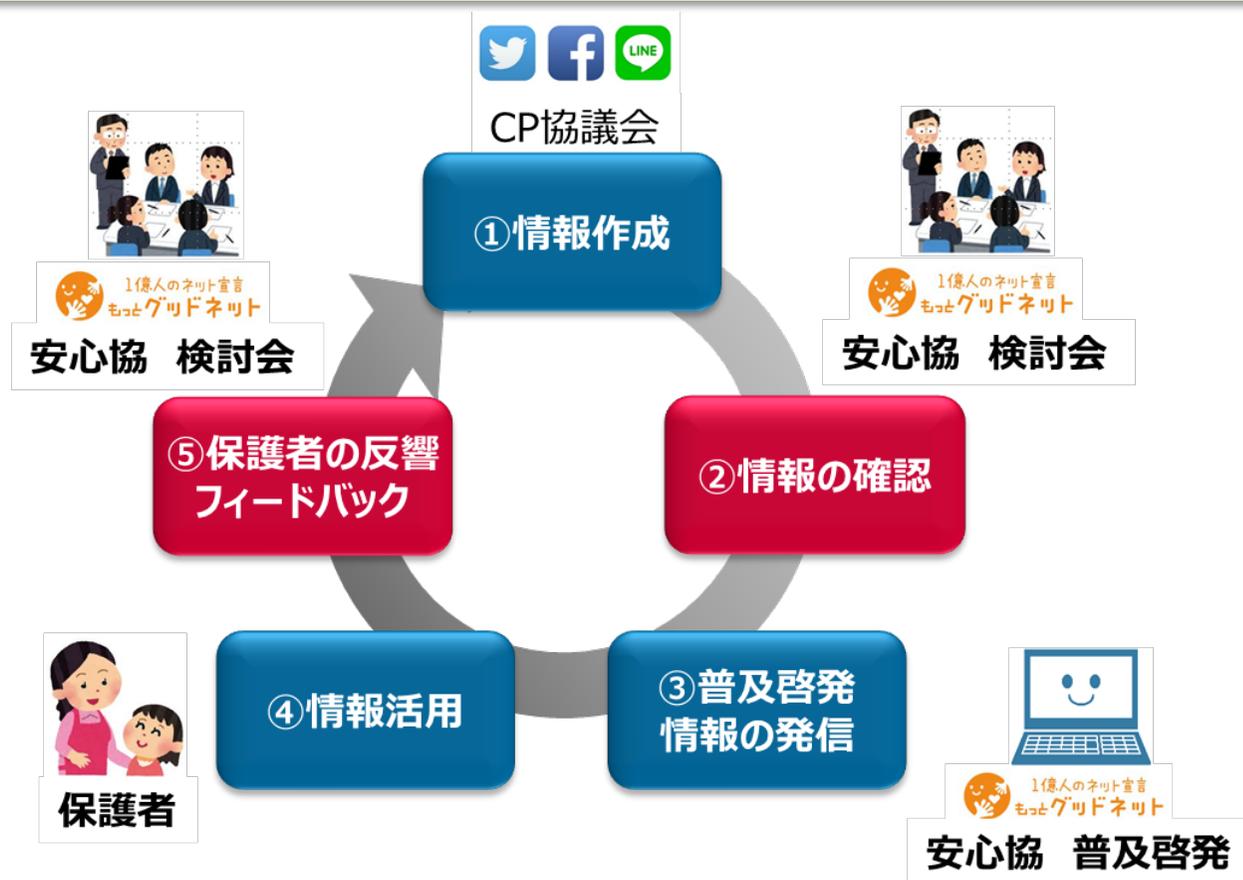
- 課金についてのルール、利用時間についてのルールが多く作られている
- フィルタリング利用者の方が、非利用者よりもルールを作っている比率が高く、とくに、アプリやサイトの制限、利用時間、利用場所などで差が大きい
- 課金についてのルールのみ、フィルタリング非利用者の方が比率が高い

家庭内で作っているルール



4. 具体的な啓発方法について

- 青少年ネット利用環境整備協議会がとりまとめる「コンテンツの利用において保護者が知っておくべき情報、知識等」を中心に「親子間コミュニケーションの重要性」や「ツール類の活用方法」などを加えた新たな保護者向け情報提供ホームページを作成し啓発活動を展開
- 情報内容の確認および保護者の反響をフィードバックするために安心協検討会を活用する予定



- **多くの保護者に情報を届けるため、会員をはじめとする関係者の協力を得て保護者の利用頻度の高いポータルサイト等を経由した安心協保護者向けホームページへの誘導ルートを開拓**

